



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和5年4月20日
5月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

じかん

校長 さんべい 三瓶 あつし 淳

「**学校側に寄って、歩いてね**。(素直に移動する子どもたちの様子を見て) **ありがとう**。」

正門を目指して、両方向から登校してくる子どもたちにその都度声をかけています。通勤・通学の方々の中には、子どもたちの集団を見て自ら車道を歩く方もいらっしゃいますが、歩道内ですれ違えるように子どもたちに、譲り合う気持ちを育てていく必要があります。朝会や朝学活などを使い、歩道の歩き方を指導しています。しかし、友達との話に夢中になったり、3人以上で登下校したりするとき歩道に広がってしまうようです。さらに、傘をさすような天候時は、雨の音もあり、前から来る方の気配に気付くことが遅くなっています。梅雨が始まるまでに改善できるよう、引き続き声をかけていきます。

さて、ある日の昼休み、子どもとすれ違った時に「校長先生！**話がなが〜い**。」と言われてしまいました。朝会や集会で話をする時には、1年生から6年生までが対象となるため、出来るだけ話を短く、要点を絞って分かりやすくしようと心掛けていただけにとても動揺しましたが、時間や話し方を振り返るよい機会になりました。

そして、6年生の国語科「時計の時間と心の時間」という説明文を思い出しました。そこには「**時計が表わす時間**」と「**心が感じる時間**」という性質の違う二つの時間があり、私たちはそれらと共に生活していると書かれています。例えば、楽しいことをしている時は時間が経つのが速く、退屈な時は遅く感じるという経験があると思います。また、1日の時間帯を考えてみた時、朝や夜は、昼に比べて時間が速く経つように感じることも多いのではないのでしょうか。

さらに「心の時間」は、人によって感覚が違います。「少し待っていてね。」と言われた時に、皆さんは「何分」と捉えて待つのでしょうか？また「何分」待つと「長い時間待たされた。」と感じるのでしょうか？家族や友人、先輩や後輩など、待たされた相手と自分との関係性によってもその長さが変わることもあるはずですが、このように考えると、「心の時間」の進み方が、人によって変わるということを入念に入れて、生活することが大切だと思います。折しも、本校は今年度より、授業時間が5分短くなっています。授業が「あっという間に終わった」のは「時計の時間」だけのせいなのか、担当する教員の授業力による「心の時計」によるものなのか検証していきたいと思います。

私自身の話も「短く、テンポよく、分かりやすく」を目指していきます。そして夏休み前には前出の子どもに、「校長先生の話、まだ長いかな？」と聞いてみようと思います。